

式 辞

中京大学の学部、並びに大学院研究科にご入学された皆さん、本日は誠にありがとうございます。中京大学を代表し、心より歓迎申し上げます。ご入学された皆さんを今日まで支えてこられたご家族や保証人の方々にも、謹んでお慶びを申し上げます。

これから先、どんな大学生活が待っているのだろうか。皆さんの胸は今、期待と不安とが、相半ばしていることでしょう。けれども心配することはありません。皆さんには、この会場に集まっている大勢の仲間がいます。もちろん、本学の教職員は全力で、皆さんのサポートに努めます。最初は誰しも、右も左も分からないところからスタートするわけですから、安心して本学の門をくぐってきてください。

最初に、中京大学の母体である学校法人梅村学園の歴史を、少々お話させていただきます。創立者である梅村清光先生が、今から103年前の1923年に設立した中京商業学校が学園のルーツです。現在の中京大学附属中京高等学校にあたります。校訓「真剣味」もこの時に定められました。「真剣味」は、江戸時代に水戸藩に置かれていた藩校・弘道館の「文武不岐」の精神に基づくもので、「真」は真実や真理を探究する知育を、「剣」は剣道や剣術、つまり体育を、「味」は人間味を育てる徳育を、それぞれ意味しています。「真剣味」という言葉には、知、体、徳をバランスよく兼ね備えて成長して欲しい、という思いが込められているのです。

中京大学は1954年に、中京短期大学として開学しました。四年制大学になったのはその2年後で、その際に大学名を現在の中京大学と改めました。初代学長だった梅村清明先生は、校訓「真剣味」をさらに具体化して、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」という建学の精神を定めました。建学の精神には、スポーツマンシップの要諦として四大綱が示されています。「一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる 四、相手に敬意を持つ」という四つです。四大綱は単にスポーツの世界だけではなく、私たちが普段、学校や社会の中で生活していく上で欠かすことのできない、大切な心構えであるといえるでしょう。

中京大学は現在、名古屋と豊田の2つのキャンパスに合せて1万3000人以上の学生が通う、中部地区でも有数の総合大学となっています。2024年には、開学70周年という大きな節目を越えたところです。皆さんの記憶に新しいトピックを申し上げますと、2月に開かれたミラノ・コルティナ冬季オリンピックには、卒業生と在學生で合計10名の選手が出場しました。このうち男子スノーボードビッグエアでは、スポーツ科学部の在學生である木村葵来選手が見事、この大会で日本勢初となる金メダルを獲得しました。学部学生が金メダルは、中京大学では、夏・冬のオリンピックを通じて史上初という快挙でした。

フィギュアスケートでは、ともに卒業生である三浦璃来選手・木原龍一選手の「りくりゅうペア」が金メダル、スポーツ科学部在学生の鍵山優真選手が男子シングルで銀メダルに輝き、団体でも2大会連続の銀メダルでした。さらにスキーマーのモーグルでも卒業生の堀島行真選手が銀と銅を1個ずつ手にする活躍で、中京勢が日本のメダルラッシュに多大な貢献を果たすこととなりました。

惜しくもメダルに届かなかった選手もおおいに健闘し、彼ら中京オリンピックの活躍は、まさに校訓「真剣味」と建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を体現してくれたものであったと思います。皆さんも入学後は、学業や部活動をはじめ、何か一生懸命に打ち込めるものを見つけ、自分なりの「真剣味」を追い求めていってください。

大学での生活は、高校までに比べると、はるかに自由なものになります。学業については自分で学びたい科目を選択するのが基本となりますし、空いた時間をどう過ごすかも自分自身に委ねられます。ただ、そうした中で楽なほうにばかり流され、なすべきことを先延ばしにしていくと、4年間はあるという間です。ですからぜひ、自分は何を学びたいのか、卒業後はどんな仕事に就いてどんな人生を目指したいのか。目標を持って日々を過ごして行ってほしいと考えます。

最初は漠然とした夢であっても構いません。ただ、その夢を実現するためにはどうすればいいのか、プランニングしていくことが大切です。そのためにはまず、本や新聞などのメディアから知識を得ること。これには大学の図書館がおおいに役立つことでしょう。そしてもう一つは、できるだけ多くの人、さまざまな分野の人と会うことによって、社会の多様性を身をもって学んでほしいと思います。大学の先輩や教職員はもちろんですが、国内だけにとどまらず、広く世界を視野に、勢いよく飛び出していってください。中京大学は皆さんに役立ててもらおうと、多彩なキャリアサポートプログラムや海外留学プログラムを用意しています。これらを存分に活用し、自分の夢を、具体的な青写真へと育てていってください。

ネットで世界中の情報が簡単に手に入る時代になり、生成AIの使い勝手も飛躍的に向上を続けています。ネットやAIの利便性を頭から否定するつもりはありませんが、簡単に手に入れた知識や情報はまた、簡単に忘れてしまうものでもあります。自分自身で試行錯誤を繰り返し、手間暇をかけて獲得した知識こそ真に身に付くものなのだ、ということを忘れずにいてください。

イランを取り巻く情勢は予断を許さず、国際秩序には今、大きな揺らぎが生じています。社会には停滞感も漂い、ともすれば対立や分断ばかりが目立ちますが、皆さんは決して、悲観にとらわれることはありません。本学での学びを通して、偏った情報やフェイクニュースに惑わされることなく物事の本質を見極める力を身に付け、将来の大いなる飛躍に備えていってほしいと願っています。

最後になりますが、皆さんの可能性は無限に広がっています。何事もあきらめることなく、全力で臨み、自らを磨いていってください。これから始まる皆さんの大学生活が実り多きものであることを心から祈念して、式辞といたします。

本日はご入学、誠におめでとうございます。

令和8年4月3日

中京大学長 梅村 清英